（平成２９年９月２５日）　**金属課ヒアリング提出資料**　　全国鉄鋼販売業連合会

１．普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

＊上段は前期比在庫増減、中段［　］は在庫水準、下段（　　）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る。点線内は全鉄連による予想数字（　　）内は誤差率＝予想値÷実績

平成29年２月末	平成29年５月末	平成29年８月末見通し	平成29年11月末見通し
＋３５千トン ［　２１７３〃　］ （１０１．７%）	＋８０千トン ［　２２５３〃　］ （１０３．７%）	＋２３千トン ［　２２７６〃　］ （１０１．０%）	－５７千トン ［　２２１９　〃　］ （９７．５%）
２１９０千ﾄﾝ（100.1）	２２３８千ﾄﾝ（99.3）	＊	＊

２．前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成29年３月末	平成29年６月末	平成29年９月末見通し	平成29年１２月末見通し
鉄筋、Ｈ形鋼、Ｃ形鋼の平均市況は 76,900 円で前年比+6,500 円、前期比では+4,900 円。メーカー値上げに連動した仮需は１月帳破明け以降鎮静化。荷動き、市況にも一服感が現れ、精彩に欠く市場動向となった。値上げ転嫁は需要不足が響き捗々しくない。値上がり玉に在庫が入れ替わりつつあるなか、販売量の確保と価格引き上げの両面で厳しい交渉に晒されていた。需要の足音遠しであった。	鉄筋、Ｈ形鋼、Ｃ形鋼の平均市況は 77,900 円で前年比+6,500 円、前期比では+1,000 円。市場環境は昨年より若干好転していたが、市況に一服感が出ていた。それを反映してか価格転嫁が進捗せず、メーカーの更なる値上げに晒されていた。需要動向には底堅いものがあったが、分野別、品種別また地域によって温度差があり、順調な回復とは言えない状況であり、末端需要は精彩を欠く動きだった。	価格上昇、需要漸増の基調が期末になって明らかになった。依然として熾烈な販売競争による局地戦的な安売りや需要の出遅れは続いており、景況回復の足枷となっているが、需要の手堅さが鮮明になってきた。問題は値上げ転嫁未達が解消しないことだ。それは粗利の低下を招き中身のない商売を強いられることでもある。これまで採算は水面上にあったが、沈下する懸念もあり、仕事はあるが儲からないという事態に陥りかねない。	年間の最需要期であり、需要は増加し、在庫は減少傾向であろう。よって荷動き、価格動向も堅調に推移すると思われる。ここ数年と比較すれば良好な市場環境が現出するかもしれない。そのなかで、市況はメーカー値上げを反映して強含み推移となるだろうが、流通末端やそれに連なる中小零細なユーザーが価格上昇に追従できるか、一抹の不安感はある。好況時の信用不安増幅という状況で年末を迎えるのは避けたいところだ。

３．在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

全鉄連流動調査８月結果では仕入、販売とも前月比減少であるが、前年比で仕入+6.7%、販売+3.4%と前年水準を上回っている。先々の需要や受注に対して、手配した動きとも受け取れる。一方、在庫は前月比横這い。前月比では+8.1%で増加ではあるが、在庫率は117.7ポイントで過剰感はない。需要見合いの仕入を行い、これが先々、消化されていくと思われる。

４．大阪、愛知の動向

（大阪）メーカーの大幅値上げ、人手不足の問題等もあるが、自動車、建機の好調に加え、建築では目立った大型物件はないものの、中小物件を中心に足許の動きはまずまずの状況。しかし、採算を考えると更に価格転嫁を推し進めて行かねばならない。来期は、土木物件も需要期に入り、また関西では物流施設の建設や、訪日外国人向けホテルの増改築、介護施設等の中小物件が出てくると思われる。

（愛知）７月から９月にかけて荷動きが出てきた。自動車関係は新車投入の効果もあり部品を運ぶ梱包系がでており堅調。例年より少ないながらも盆工事も出て設備向けも堅調に推移。Ｓ造に関しても大型案件は一服しており空中戦を含めた全体数量は減っているものの、中小案件が出始めていて、現物手配が増えており問屋販売としては荷動き増加傾向。反面ＲＣ造は引き合いが少なく低調。全体的に価格転嫁が遅れており、メーカーの強い姿勢と需要増に乗り遅れないようにすることが課題となる。